

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第15回 考え方のギャップを解消しながら進めた仲間づくり

会員同士の視察などで 知識や技術を相談し合える関係に

地域交流牧場全国連絡会東北ブロック(宮城県刈田郡蔵王町 (一財)蔵王酪農センター) 笠原 新一

酪農教育ファームの認証制度で 会員牧場のイメージに変化

1999年、交流活動を行っている牧場のネットワーク組織として交牧連が設立されました。私が働いている(一財)蔵王酪農センターは交牧連設立当初から会員として活動を始めましたが、実際には立ち上げの準備段階から携わっていました。

当時、全国各地でバラバラに活動していたちょっと変わった酪農家たちがつくったネットワークで、個性的な牧場の集まりです。やり方や考え方もまちまちで、設立総会の時に行われた喧々諤々(けんけんがくがく)の議論を鮮明に記憶しています。熱を帯びたさまざまな意見が飛び交う中、最後に意見を集約できたのは、みんなの「日本の酪農を思う気持ち」があったからでした。交牧連設立のベースになったのは、それまで(一社)中央酪農会議で運営していた「日本の牧場スタンプラリー」で、これに参加していた酪農家は皆、酪農の価値について熱い思いを持っていたように思います。

今でこそ「酪農に対する理解獲得」というフレーズで語られる交流活動ですが、設立当時は牧場での体験交流活動をしている少し変わった酪農家と思われていたような気がします。牧場での乳製品製造やソフトクリームの販売も、当時はまだ「酪農の6次産業化」という言葉で語られることはなく、勝手に乳製品をつくった



活動方針などを決めるブロック会議

り売ったりしている酪農家くらいにしか思われてなかったかもしれません。

その後、中央酪農会議が酪農教育ファーム推進委員会を組織して酪農教育ファームの認証制度をつくったのを受け、交牧連の多くの牧場がこの認証を取得しました。酪農教育ファームは社会貢献活動として認識され、交牧連の会員牧場のイメージも少しずつ「交流活動や乳製品の製造販売を通じての酪農の価値を伝える人」に変わっていったように思います。

組織的にもそれまでは「生産者と中央団体が直接つながった線的な組織」でしたが、各地域の指定団体に事務局を担ってもらうことになり、「生産者、指定団体、中央団体が連携した面的な組織」へと変わっていきました。今では、日本の酪農に対する中央酪農会議の考え方を指定団体が酪農家に伝え、それを酪農家が子どもたちや消費者に伝える、という役割分担ができていくように思います。

被災した小学校の支援へ 出前型酪農体験を2011年秋から

私は東北ブロックの活動に関して設立当初から役員



生徒・学生を対象にしたジュニアファシリテーター研修



福島県楡葉町で開いた酪農体験。震災当年の秋から被災小学校を支援するため行っている



秋田県で行った研修会の集合写真。会員牧場の視察などを通し相互理解を図っている

として、また事務局として関わってきました。前述のように個性的な酪農家の集まりだったため、まずは会員の相互理解が必要で、互いの牧場の活動内容や考え方について知ることからスタートしました。特に東北ブロックは法人の会員が複数あり、事業の一環として活動を行っていることが多く、個人としてボランティア的に活動している会員と活動内容や考え方にギャップがありましたが、互いを理解し合うことで、うまく役割分担ができたと思います。会員牧場を視察することで理解が深まり、視察後の懇親会を通じて心理的な距離も縮まっていきました。それに、いろいろな研修を通じて必要な情報や知識、技術を学び合え、自分がほしい知識や技術について相談し合える関係性が築けています。

交牧連の設立から10年以上が過ぎ、酪農家と指定団体、中央酪農会議の連係が深まってきていた2011年3月11日、大地震が起きました。

私自身は、町役場で教育委員会の関係者と酪農教育ファームに関して打ち合わせしている時でした。緩やかな横揺れから始まった揺れは収まる気配もなく、それどころかだんだん強さを増し、しまいには立ってられないほどになりました。実際はもっと短かったと思いますが、2、3分くらい続いたような感覚でした。

今まで経験したことのない地震だったので、打ち合わせを即刻中止し牧場に戻ったところ、事務所は書類が、チーズの直売店は商品が、直営のレストランは食器が散乱していました。また、地震直後の停電でチーズ工場は製造も止めざるを得ませんでした。農場は発電機を使って搾乳はできたも

の、集乳所も被災したため搾っては廃棄する状態が続きました。地震の被害についてはみなさんご存じの通りですが、海岸部の津波被害と福島第一原発による被害が甚大でした。

交牧連は被災した小学校の支援のため出前型の酪農体験をその年の秋から始め、10年目以降は東北ブロックの活動として実施しています。

コロナ禍など逆風吹く中、 会員農業高校の盛んな活動が話題に

コロナ禍は東北ブロックの活動にも大きな影響を与えています。人と人の接触が制限される状況は交流活動に直接影響し、リモートのツールを使って会議や研修の活動はできても、五感に訴える体験ができません。20年度は全く活動できず、会員を辞める牧場もありました。コロナ禍の影響が徐々に少なくなっていく22年はロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安による破壊的な飼料高や電気代・燃料費の高騰に見舞われ、酪農自体をやめる会員も出ています。

逆風が吹き荒れる中、東北ブロックでは会員の農業高校の活動が盛んになっているのが明るい話題です。ブロックとして高校生向けのカリキュラム「酪農教育ファームジュニアファシリテーター」を支援し、農業高校生のスキルアップと酪農への理解を深めてもらう活動に取り組んでいます。

東日本大震災に関しては復興がかなり進んでいるものの、いまだに道半ばの地域もあり、震災を風化させないという点からも要望がある限り復興支援の酪農体験を続けていきたいと思っています。

牧場概要
 牧場名 (一財)蔵王酪農センター
 代表者名 富士 重夫
 所在地 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字七日原251-4
 設立年 1960年
 飼養頭数 149頭(うち搾乳牛91頭)
 年間生産乳量 933t
 飼養形態 放し飼い(フリーバーン)
 飼料畑面積 約70ha(牧草(オーチャードグラス、アルファルファ))
 牧場スタッフ 4人
 交牧連加入年 1999年
 主な活動 酪農教育ファーム活動、乳製品の製造・販売、酪農研修やチーズ研修の開催

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先
 (一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
 TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
 メール:koubokuren@churaku.jp
 ホームページ:https://www.dairy-farm.jp/
 フェイスブック:https://www.facebook.com/koubokuren
 【交牧連 HP】

